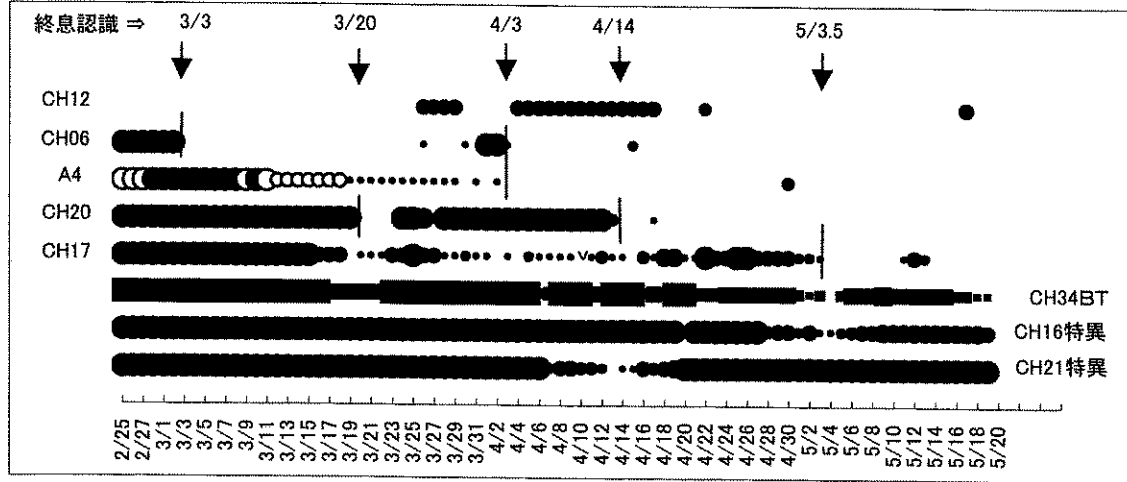


原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

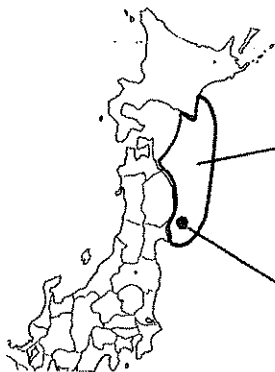
※No.086 の続報 ※推定根拠、推定規模、推定領域、推定時期については続報No.81～No.86を参照下さい。



02月26日付公開No.81～84で、早い場合の推定発生時期は7月31日±3の可能性と報告致しました。05月09日付公開のNo.86では、No.1778関連認識継続前兆の終息変化から、7月31日±1時期の可能性が計算され、今後新たな前兆極大が出現しない場合は、現推定が支持される観測現況となっていることを報告致しました。05月03日昼にCH17特異が静穏化したことを報告致しましたが、05月11日～13日に再び短時間ですがCH17に特異が出現しました。しかし、一時的な出現で、その後は上図のとおり、CH17は静穏通常基線を記録しておりますので、CH17終息時

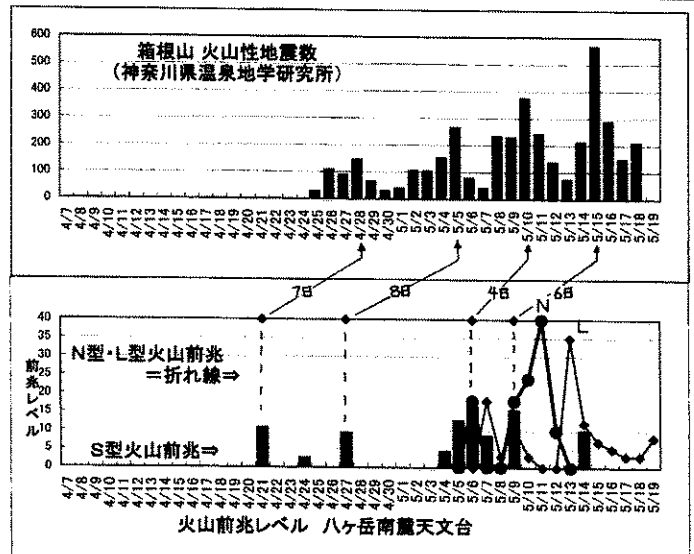
期=5/3.5 認識で良いと思われま。最終極大認識=2015年01月22日に対する前兆終息推定時期=06月13日±と計算されますので、この時期までは前兆が継続又は再出現する可能性もあります。06月13日±時期に全前兆が終息すれば、現推定が正しいこととなります。終息しなかった場合は再考の必要があります。最大で30以上の観測装置に顕著な前兆が出現してきたNo.1778前兆ですが、現在は3基のみの前兆。今後の変化を続報予定。推定領域は、考え易いのが近畿圏ですが、影響局の関係で東北圏の可能性も、未だ完全否定はできません。

参考：5月13日宮城沖M6.8も箱根火山活動も推定良好でした



- ※最終情報No.2629 (05月07日配信) 記載
前兆極大=4/14 Tmap=29日
- 【推定】(海域プレート境界型地震推定)
- 推定領域: 左図太線内海域
- 推定規模: (海深による補正推定)
海深200m~500mでは=M6.7±0.5
海深500m~1000mでは=M7.1±0.5
- 推定発生: 5月13日±4
- 【実際】
- 震央: 宮城県沖海深200m~500m海域
- 規模: M6.8-46km(最大震度5強)
- 発生日: 5月13日 06:12 JST
- ※震源情報=気象庁暫定値

4/14、高知観測点のK6に顕著なBF前兆が観測され、断続的に継続出現。ハヶ岳及び秋田観測点の観測装置複数にも前兆観測。当初は4/14に吾妻山火山性地震の前兆がピークを作ったため、K6-BFも火山性地震関連の可能性も考えましたが、4/21、4/30にもK6-BFが明確に観測され、5/6に終息したことから、東北圏海域中規模地震前兆と再認識し、最終情報として上記のとおりを推定。ほぼ誤差無く、良好な発生推定結果。全前兆から推定領域を求めた場合、宮城沖～若手沖と限定できが、5/7配信時点では、北海道南部海域も含めた。前兆極大～発生までのTmapは29日で、プレート境界型地震のTmap=通常5日±、長い場合=12.5日±、30日±の過去例通り。前兆が長く断続的出現からTmap30日±の可能性。実際の極大終息から発生日を計算し5/13±と推定。



4/21よりS型火山前兆を観測。火山活動前兆は地震前兆程明確な経験則が未だ得られておらず、領域も個別火山推定は困難ですが、伊豆領域(富士山、箱根、伊豆、伊豆諸島)領域の火山性地震活動を推定。4/26からの箱根火山性地震が発生。各火山性地震ピークに対し6日±2先行してS型火山前兆が観測され、S型火山前兆から推定した活動増加日も良好に推定成功。5/11のN型前兆は対応活動まで時間がかかる推定です。全て、FAXとE-mailによる実験観測情報で日々の観測データと推定を公開しています。C) Copyright 2015 YSBO ハヶ岳南麓天文台